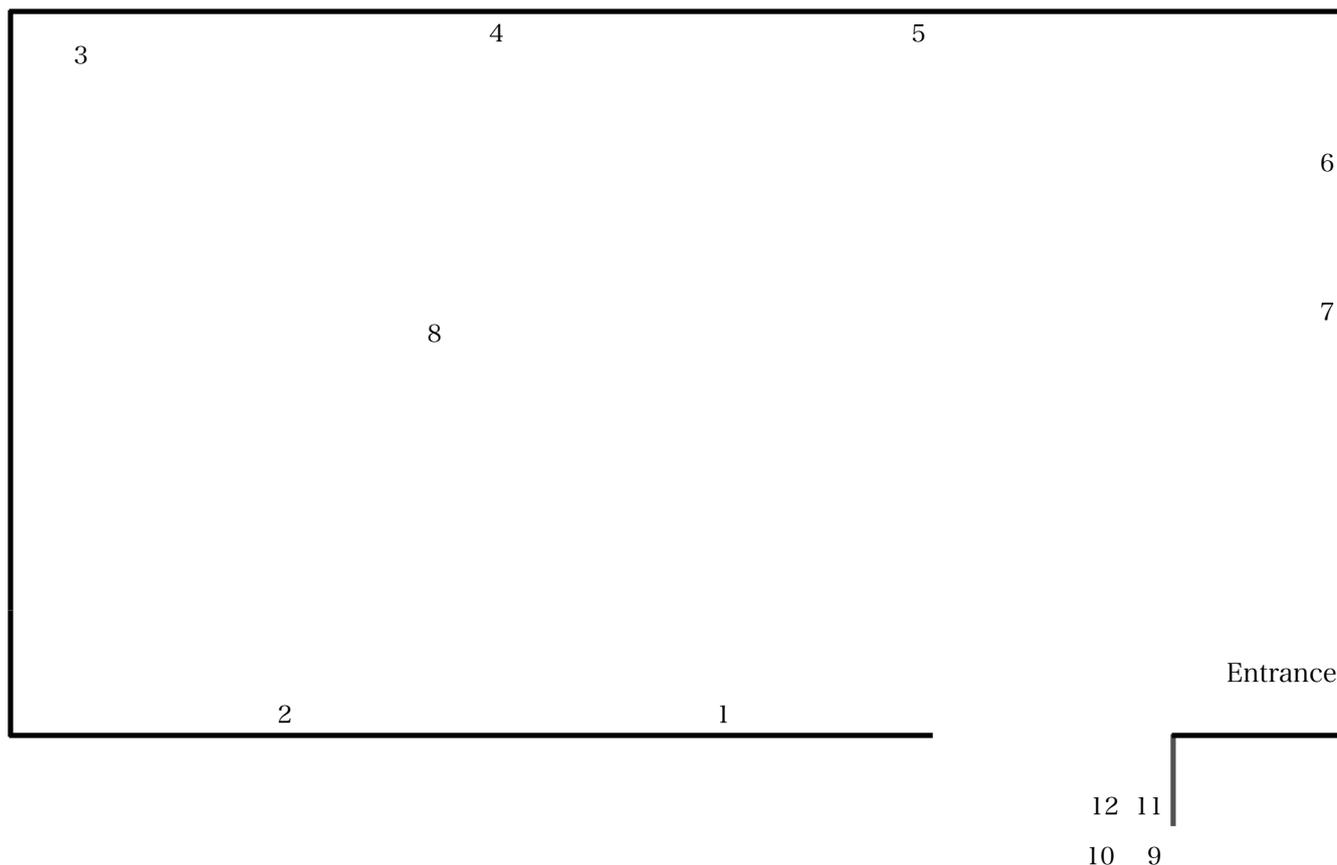


亀元 円展「Somewhere Sometime Something」2022.10.9(sun) -10.22(sat)



No	作品No	作品名	制作年	サイズ	素材/技法	価格(税抜)	価格(税込)
1	2210-01	Horse-1	2022	200×170×190	樟	¥60,000	¥66,000
2	2210-02	Horse-2	2022	300×300×240	樟	¥50,000	¥55,000
3	2210-03	二匹の動物	2022	1120×1020×180	樟	¥200,000	¥220,000
4	2210-04	In and Out (Ramb) -2	2022	1000×280×100	ワックス	¥80,000	¥88,000
5	2210-05	繋がりの予感	2022	248×230×120	樟	¥40,000	¥44,000
6	2210-06	Circles	2022	910×600×100	ワックス アクリルパネル	¥40,000	¥44,000
7	2210-07	Human	2022	910×600×100	ワックス アクリルパネル	¥40,000	¥44,000
8	2210-08	In and Out (Ramb) -1	2022	1060×320×250	樟	¥250,000	¥275,000
9	2210-09	こする	2022	225×150	紙 クレヨン アクリルパネル	¥6,000	¥6,600
10	2210-10	6匹の鳥	2022	225×150	紙 クレヨン アクリルパネル	¥6,000	¥6,600
11	2210-11	手の輪郭	2022	225×150	紙 クレヨン アクリルパネル	¥6,000	¥6,600
12	2210-12	2匹の鳥	2022	225×150	紙 クレヨン アクリルパネル	¥6,000	¥6,600



亀元円 KAMEMOTO tsubura

1992 東京都生まれ

2016 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科 卒業

2018 武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻彫刻コース 修了

[主な展覧会]

2022

「亀元円-Somewhere Sometime Something-」展 galerieH/東京

2021

「亀元円-SAVAGE-」展 galerieH/東京

2020

「亀元円 -Hidden Place-」展 galerieH/東京

2019

「FIRE WORK」展 ROJIBI/東京

2018

「平成29年度 第41回東京五美術大学連合卒業・修了制作」展 国立新美術館/東京

「平成29年度 武蔵野美術大学卒業・修了制作」展 武蔵野美術大学美術館/東京

2017

「でんちゅうストラット」展 小平市平櫛田中彫刻美術館/東京

「彫刻と対話法Ⅲ 思いどおりをする、をするか」展 府中市美術館/東京

「LOST SIDE STRIP -失われた路側帯-」展 ミツバコウサクショ/東京

2016

「INTEN」武蔵野美術大学/東京

「平成26年度 第39回東京五美術大学連合卒業・修了制作」展 国立新美術館/東京

「平成26年度 武蔵野美術大学卒業・修了制作」展 武蔵野美術大学美術館/東京

2015

「逸脱展」武蔵野美術大学/東京

「森に還る」千住芸術村/東京

2014

「いそがし!」千住芸術村/東京

2013

「nanaten」UPSTAIRS GALLERY/東京

「小平アートサイト2012：点在する今」展 小平市中央公園/東京

[主な受賞]

2018

「平成29年度武蔵野美術大学卒業・修了制作」展 優秀作品賞

2015

「第22回公募展 木彫フォークアートおおや」入選



<https://bit.ly/2ZzgcOP>

Artist Page_亀元円



<https://bit.ly/31nqJ30>

Online Store_亀元円

Somewhere Sometime Something

先史時代の壁画や彫刻について書いている本を読んでいると、その時代と現在の興味の対象にあまり変わらないことに気づく。人間、植物、動物など。私たちは、言葉を話す前から、この世界に対して興味を持ち、それを彫刻や絵にしていた。

何が彼らにそれらを理解、表現させたのか。

私が何かを作る時に考えることを突き詰めていけば、この世界とは一体何か？この世界の中にいるわたしは何なのか？という子供の頃に感じ、考えるような根源的な問いにぶつかる。そしてその問いは、子供時代だけでなく現在も続いているし、私だけでなく過去・現在・未来で多くの人々が一度は考えることではないだろうか。この世界を知るため、またはこの世界の謎の一端に触れるために動物や人間を彫刻している。そして、世界の中にいる私の中にある世界に対しても、同じように考え制作をしている。自分とは一体何か？世界が持つ謎も、私を動かす体の中の物質も、目に見ることはできない。だから、彫刻や絵にし、捉えている。

Somewhere Sometime Something = 「どこか・いつか・なにか」 この根源的な問いを持つ人々との繋がり、また、私が何かを作る時に、「今・ここ」だけでなく、過去・現在・未来のどこかの人々と繋がることのできるのではないかと思い、展示のタイトルとした。

彫刻 - 未知との遭遇

制作をしていると、よくわからなくなる。

彫刻とはなにか？なぜ人のかたちや、動物のかたちを作るのだろうか？もうこの世界にそれらは存在しているのに。その彫刻が存在するこの世界とは？そして、その世界に存在する私の中に存在する世界とは？彫刻はどこからやってきて、どこにあって、どこに行くのだろうか。制作をするときはそんなことの答えを強く求めるけど、いつも答えには至らない。答えに至ることはないが、作ることでしかその答えに近づくこともない。

彫刻は未知との遭遇のよう。自分が次におこすアクションが作品にもたらす何か、はその瞬間を迎えないと認識できない。次の瞬間、何が起こるかわからない状況のなかで、混ざりあっているたくさんの感覚を追いかけながら作る。間違いなく、混乱や矛盾を孕みながら。

彫刻は常に未知から始まり、未知を経験するから私たちの知っているものに彫刻は属していないと思う。いつも「知らない」を彫刻は持っている。

作ることは、未知との遭遇と遭遇した未知を積み重ねていくことだと思ふ。私は、いつまでも未知との遭遇の前でわからなさを抱えているし、矛盾と混乱を繰り返しながら作っている。

2022.10 亀元 円